A Survey to Understand International Art Education--
A Basic Study of Development of Sketch

Akiro Murakami

Abstract

Many studies have been conducted on the significance, evaluation, and achievements of modeling art education since it was put into practice. Research on "art education in the past and at present" can be found everywhere in the world. Some researchers think the goal "to present things as they are" is the artistic standard in the Renaissance. When it is applied to education, it is "pedagogy classic." These researchers hope "pedagogy baroque", which did not appear until the latter part of the Renaissance, can be used to describe modern art education. No matter whether their point is correct, we should know how to evaluate the achievements of modeling art education that keeps going on in daily life, not in class.

Up to the present time, most research has been done on the development of sketch. Japan's Ministry of Education published a manual entitled "Guidelines of Education: Painting" in 1947. In its introduction and the chapter "Painting Education and School Children Development", sketch was stipulated as part of basic art education. Though it contained a brief history of the development of sketch, it did not give a word to the characteristics of sketch in different place as a result of the differences in custom and environment. Therefore, this study is to compare the development of sketch in Japan and in other countries (not to decide which is better).

Researchers in Japan and France, under the same circumstances, compared the expression ways males and females between 6 and 20 years old sketch the same subject. Based on the results, we found: different education, environment,

language, and culture in the two countries have a tremendous influence on people at this age level in their sketches. This study is regarded as part of survey on the development of sketch. (China, Finland, and Canada will conduct the survey, too.)

Because this study is a joint effort of Japan's and foreign researchers, it is entitled "A Survey to Understand International Art Education--A Basic Study of Development of Sketch."

This study was presented by Japanese and French representatives at the "28th INSEA International Conference" at Montreal, Canada in August, 1993.

Japan's Ministry of Education will appropriate research funds to this survey for three years from 1991.

促進瞭解國際美術教育之具體研究
—有關素描發展之基礎研究—

村上曉郎

摘要

造型美術教育自成立後，相關人士即不斷地研究調查其意義、評價及實施成果。因此，在世界各地，隨處可見以「美術教育之傳承與現代」爲題而展開的相關研究。部份研究者認爲，「盡可能重現原有事物面貌」之目標，乃是義大利文藝復興時期之藝術標準，且稱此種教育方式爲「古典式教育（pedagogy classic）」，這些研究者希望在提及現代美術教育時，能使用文藝復興時期後才出現之「巴洛克式教育（pedagogy baroque）」一語。在此，我們姑且不論上述想法之對錯，而是想要瞭解：應如何評估在課堂之外，每天都在進行的造型美術教育之成果。

到目前爲止，大多數的研究者所提出的研究資料，多爲有關素描方面的發展情況。１９４７年，文部省（相當於教育部）發行了一本名爲『學習指導要領圖畫工作篇』之手冊，其中之「前言」與「圖畫工作之學習與學童之發展」兩篇文章中，將素描明定爲學校教育中基礎美術指導項目之一。其中雖概要說明了素描的發展過程，但是對於因風土以及現實的環境差異，而造成的獨特素描表現方式卻隻字未提。爲此，此次之研究目的，即在比較日本與其他國家的差異（並非比較兩者間表現方式的優劣）。

此次，日本與法國皆本著上述研究目的，在相同的條件下，比較研究兩國間６～２０歲之男女，對同一主題之素描表現方式。經由這項調查，使我們瞭解到：此年齡層者之素描表現方式，與兩國間的學校教育方式、生活環境、語言以及文化等有很大的影響。此例子已被視爲素描發展有關調查之一（今後，中國大陸、芬蘭、加拿大也會加入此項調查計劃）。

由於此項調查乃是與海外研究者共同分析、比較資料之故，因此我們將此報告之標題定爲『促進瞭解國際美術教育之具體研究—有關素描發展之基礎研究』。

１９９３年8月，此報告在加拿大蒙特利爾市舉行之「第２８次ＩＮＳＥＡ世界會議」中，已由日法兩國代表共同發表。

文部省自１９９１年起，提撥3年之科學研究費予本項研究。

美術教育における国際理解の実践的研究

―描画発達についての基礎的研究―

1993年７月20日

日仏共同研究 美術部門

序

造形美術教育の意義とその実践や評価について世界中の関係者たちが，その当初から研究調査を続けてきた。その作業は現在でも各国各地で「美術教育における伝承と現代」を主要テーマとして行われている。従来行われてきた，事物の正確な再表現を良しとする実践とその評価のあり方に対して，その形式はイタリア・ルネサンスの芸術のようだとして古典的教育（ペダゴジー・クラシック）と評し，現代の表現はイタリア・ルネサンスに続く開かれた時期に当るとしてペダゴジー・バロックの用語を現代美術教育に使いたいとする研究者がいる。その是非はともかく，学校教育その他の場で日々実践されている造形美術教育の成果はどのように評価したらよいのだろうか。

これまでに多くの研究者たちが，主として描画に見られる発達の研究資料を提示している。学校教育の中でそれが明快に示されて指導上の一つの基盤になったものに，1947（昭和22）年文部省が試案として刊行した『学習指導要領図画工作編』の「はじめのことば」「図画工作の学習と児童・生徒の発達」がある。そこには発達についての概要は示されているものの，風土や現実的環境の差による独自な表現の形には触れていない。この差はなにか，の実態について日本と他の国との比較（表現の形に優劣をつけるものではない）を試みようとしたのが今回の研究目的である。

今回，日本とフランスの間で，上記の目的に従って同一主題を同一条件で，両国の6歳から成人までの男女がどのように表現するのかの比較調査を行った。この調査から両国の学校教育，生活環境，言語，文化的伝承などが，子どもから成人までの描画表現に関与していることが理解された。この事例は一般に言う描画発達に関する調査の一つのあり方と考えている（この調査には中国，フィンランド，カナダが参加することになっている)。

海外の研究者と共同で行った諸資料の分析・比較調査の事由に基いて，この報告書に『美術教育における国際理解の実践研究－描画の発達についての基礎的研究－』の標題をつけた。

なお，この報告は1993年8月カナダ・モントリオールで行われる第28回INSEA世界会議で日仏共同で発表する。

本研究に対しては，1991年より3年間文部省の科学研究費を頂いた。

1993年5月30日

研究代表：村上 暁郎

日仏共同研究美術部門研究員（1993年4月現在）

日本側研究員

池田美津恵	港区立飯倉小学校
石井 優子	中延学園高等学校
石崎 和宏	秋田大学教育学部
大河原愛子	聖心女子専門学校
大坪 圭輔	東京大学教育学部附属中・高等学校
北沢 昌代	カリタス女子中学・高等学校
栗田 真司	山梨大学教育学部
妹尾 宏行	都立墨田高等学校
滝沢 文子	豊島区立高南小学校
仲瀬 律久	筑波大学
橋本　繁	大妻女子中・高等学校
藤崎 典子	品川区立八潮南中学校
前村　晃	佐賀大学教育学部
水島 尚喜	山形大学教育学部
宮脇　理	佐賀大学教育学部
緑川 敏夫	豊島区立豊南小学校
村上 暁郎	武蔵野美術大学
吉田由紀子	東京大学教育学部附属中・高等学校
山田 一美	北海道教育大学

フランス側研究員

ベルナール・ダラス	パリ大学，第1，第8教授
イヴォンヌ・コラン	ヴァルドワーズ師範学校教授

1. 本研究の発端ならびに趣旨

本研究は数学教育方法についての日仏共同研究との関連で始まったものである．奇異なことと思われるがその理由は以下のとおりである。

1987年，数学教育方法について日仏共同研究の提案があった。仏側はグルノーブル大学教授C・ラボルド，日仏会館研究員B・ドゥニ女史。日本側は九州大学文学部心理学科，筑波大学教育学部の研究者であった。その動機は，日仏間の文化的背景は異なっているが，両国の生活水準は類似していることから，環境や教育が生徒の知識におよぼす文化的変数の影響についての比較研究が可能であるという理由によるものである。その具体的研究内容としては，

① 物理的空間の関係において，作図と図像による表現能力獲得の果たす役割，生徒たちを種々の文脈について図表現の位置の見当の付け方の問題で比較すること。

② 西洋および日本の社会における遠近法の歴史，空間内の立体の図像による表現におよぼす文化的変数の影響の研究（比較対照表による）.

等があげられた。

上記の研究調査進行のために来日し，日仏会館研究員であったB・ドゥニ女史は，当時「教育美術振興会々議室」に集まっていた日本の美術教育研究者グループ（代表：宮脇理，進行：前村晃）に，事物の描画表現発達の具体について，日仏間で比較研究はできないだろうかと提案した。

日仏共同研究の進行と組織に関して，その後，日仏会館副理事長：弥永昌吉教授の取り計らいによって，共同研究責任者は日本側から杉山吉茂教授，山内光哉教授，村上暁郎教授，仏側はB・ドゥニ女史で発足することになった。

2. 研究経過

1987年5月：

上記の研究組織発足に先立って，B・ドゥニ女史は武蔵野美術大学の村上と以下の件について話し合った。

① 日本の美術教育の変遷の概略。現代の美術教育の内容（学習指導要領，教科書による）について。

② 自由に描くことと学校教育美術科，図工科の学習内容の関連について。

③ フランスのデッサン図画教育の始まり（19世紀後半）のころの教育内容について。

その翌月に彼女から，幾何学の学習に美術教育同様の視覚表現について関連する部分があるので，その部分について教育的見地から共同で研究したい。なお，これは教育学者や心理学者も加わる学際的共同研究になる予定である。仏側美術部門の協力者はB・ダラス教授であることが示された。その後，日仏会館へ日本側数人の美術の先生方が集まり，彼女の日本側美術教育との共同研究にかかわる話合いが行われた。

当時，共同研究についての趣旨，内容，実践調査方法等についての詳細は理解できなかった

が，描画，美意識の発達にかかわる内容があることから，そこでの参加者はおおよそ賛成し，共同研究に加わる意向を表明した。

1988年２月：

「教育美術振興会」で第１回日仏共同研究美術部門会議が開かれた。宮脇理教授の挨拶の後，前村晃教授の経過報告があり，組織，予算，研究の内容・方法についての話し合いが行われた。

1987年12月～1988年３月：

この間，Ｂ・ダラスと村上はこの研究についての打ち合わせを行っていた。ここで示されたＢ・ダラス案は「並木道のそばに家がある。その家の屋根の煙突から煙が出ている。家の部屋では子どもたちが遊んでいる。庭ではピンポンをしている別の子ども達がいる。」の文章をA5判に縦書きし（仏側は横書きする），その裏にその情景を紙型を自由に使って描かせる。その対象は６歳から成人までの男女50名づつとし，右利き，左利き，両手利きの記号を付し，年齢別に通し番号（001～100）ならびに性別を記す。この作業は可能ならば長期の休み明けに，描画時間25分，美術以外の先生の指示によって行いたい。さらに親の職業（インテリ層，一般勤務者，労働者）も付してもらいたい（日本側はこれを拒否）．このようにして得たデッサンを日仏両国でそれぞれコピーし，その交換資料によって調査を開始することになった。

この研究は資料収集が日仏共になかなかはかどらないままに，また共通した分析方法を持たないまま進行した。実施前から日仏の生活環境の差や翻訳上の使用言語が問題になった。東京の子どもは煙突や煙を描くだろうか，庭でピンポンをしていることを想像で描けるのか，部屋は仏語でchambre（寝室）を意味するから表現上日仏間に差があるだろう。日本では道の片側に木が並んでいても並木道としてよいが，仏語では両側を木に囲まれている道をいうのだがどのような表現になるだろうか，等々である。1989年の日本側の発表までは日仏共通の分析方法を持たぬままの研究発表であり，資料も完全には集まっていなかった。

1988年12月：

「子どもの描画表現の発達について－発達の検証のための日仏共同研究その１－」大坪圭輔報告，於国立教育会館，日本美術教育連合研究会。

1989年11月：

筑波大学で日仏共同研究総合部会が開催された。このとき，はじめて日仏の共同研究者が一堂に会し，あるいは専門分科会で意見・成果の発表を行った。

1989年11月：

「空間認識の発達と青年期にみられるスティックマン表現に関する考察」石崎和宏報告，於筑波大学，日仏共同研究シンポジウム。

「立方体・直方体を基礎とする描画表現の日仏比較－投影表現の発達を中心として－」栗田真司報告，お茶の水女子大学付属小学校，日本美術教育連合研究会。

1990年３月：

仏側Ｂ・ダラス教授から日仏共通分析資料による分析が完了したとの報告があり，その結果による報告がフランス・セーヴルの国際教育研究所で行われた。村上も画面中心部分に描かれた事物の日仏比較を報告。

1990年11月：

「木の表現イコノタイプ」北沢昌代報告，於国立教育会館.

1991年３月：

フランス・グルノーブル，フリエ大学で日仏共同研究総合部会が開催された。美術部門には日本側から石井優子と村上，仏側はＢ・ダラス，Ｙ・コランが出席した。

日本側は，研究経過に関して，国立教育研究所刊行の報告書によって美術部会での研究進行内容を解説した。

日仏共同研究「空間認識と幾何教育についての日仏共同研究」の標題で，研究代表者澤田利夫教授（国立教育研究所，科学教育センター長）が研究資料集を刊行した（文部省科学研究費・国際学術研究　課題番号：02044152)]

分析集計作業が遅れている理由については協力者のうち５名が東京を離れた大学の教官になったこと，他の研究員も忙しく作業が進まなかった。

仏側の研究経過，成果についての報告がなかったことは残念であると伝えた。

仏側からは，日本の分析集計の一部に誤りがあるので再点検してもらいたいと要求された。

また，この比較研究について日本側から「一羽のにわとりが一本の木の前を歩いてます」の課題で資料を集めて調査したいと提案した。これに対し，仏側からは，実施方法と分析集計方法が示されれば直ちに応ずるとの答があった。

1991年11月：

「日仏の子供にみる空間表現について」滝沢文子報告，於国立教育会館，日本美術教育連合研究会。

文部省より科学研究費が支給された.

1992年４月：

中国上海より「一羽のにわとりが一本の木の前を歩いてます」の課題によるデッサン301枚が届く。日本側のデッサン，成人の部を除き収集された。仏側からはデッサンの分析集計のみ届いた。

藤崎典子，筑波大学の芸術研究誌「芸術教育学」第５号に「Ｂ・ダラスのS.R.I研究」発表。

村上暁郎，INSEAアジア大会で「日仏共同研究，美術部門の研究とその成果」報告。

文部省より科学研究費が支給された。

1993年５月：

中国および日本の「にわとり」資料の分析集計終了。

本研究の現在までの成果の報告書刊行準備にかかる。

1993年７月：

日仏共同研究総合研究大会が筑波大学，国立教育研究所で開催される。Ｂ・ダラスと日本側研究員の部会が持たれる。

1993年８月：

モントリオールで開催されるINSEA第28回世界会議でＢ・ダラス，村上暁郎が共同研究の成果について発表する。

1. 調査実施方法

実施方法についての研究会は数度，数ヶ月にわたって日本で行われた。その内容は，幾何学との関連と描画表現にみられる発達，美意識の進展，描画表現に表われた事物の心理学的解釈等を描画を通して日仏共同課題にどのように取り込めるか等々であった。

そこでの話し合いの内容については仏側研究者B・ダラスと交信した。その具体的な取り決めは1988年2月パリで決められて，日本側研究員に伝えられた。その要領は以下の通りであった。

描画調査のお願い

厳しい残暑が続いていますが，先生におかれましては，益々ご健勝のこととお慶び申し上げます.

さて，早速ですが，私共の下記のような研究における描画調査にご協力を賜りたく，書面をもってお願い申しあげます.

実は，私共は，現在，日仏会館をはじめ日仏両国の教育研究諸機関の援助を受けながら，「空間の把握・理解と幾何の学習」を共通テーマとする学際的な共同研究に取り組んでおりますが，この研究におきましては，日仏両国の数学，地理，心理，美術等の専門家が，共通テーマ以外にも基礎的資料を得るために，各部門ごとの独自の調査研究をも実施しております.

私共の美術部門でも日仏両国の子どもの美意識と造形表現能力の発達の違いを明らかにするために，幾つか調査を予定していますが，その手初めとして，フランスのベルナール・ダラス氏提案の別紙のような要領による描画調査を実施することに致しました．私共としましては，あまり例を見ない複合的な要素を含んだ調査ですので，どんな結果が出てくるか大変楽しみにしています.

従いまして，先生には，ご多忙中大変お手数をおかけするとは存じますが，ぜひこの調査にご協力下さいますようお願い申しあげます.

日仏幾何教育共同研究　美術部門代表
武蔵野美術大学教授
村上 暁郎

描画調査の要領

◇対象者　6歳～成人（美術を専門としないひと）
先生には　小・中・高・大　（　）年　（　）名お願いします.

◇時　期　学校の夏休み後，学校の授業と関連のない場で行う.
成人も自由にリラックスして参加できる場所，環境で行う.

◇方　法　①　用紙；21×15（A5）位の気安く使える白い紙
②　実施時間；文章を書く時間の後約20分間
③　実施方法；次の文章を書き取らせる（日本では縦書きとする）

文章“並木道があります．そのそばに家があります．その家には煙突があり，煙がでています．家の部屋では子供が遊んでいます．外の庭では別の子どもたちがピンポンをしています”

その他の記載；年令，性別，実施都市または町村名（文章の前に各人に書かせる）

◇実施者　・できるだけ芸術とは関係のない人がよい.

☆実施上の注意
・文章を書くのが極端に遅い子には，絵のほうをかくようにいう.
・紙は縦横自由.
・かくことについて何の助言もしないこと.
・リラックスしてかけるように配慮する．他人のまねをしない．成績とは関係がないという.
・黒の鉛筆，ボールペン，サインペンのいずれかでかく．消しゴム使用可.

◎作品分析用の記号等は調査依頼者のほうで記入する.

調査資料は日仏共に6歳から17歳までの男女各50名，18歳以上は成人として，男女各50名を収集することにした（1991年文部省から支給された科学研究費によってそれらの資料2,600点のコピーを製本している）。

2. 分析項目

分析項目についても日仏間で協議した結果，以下のような320項目によって行うこと。その集計は日仏間で共有し，分析の結果についての研究と解釈は両国，研究者の自由であることと，その資料に基づいた研究発表は研究参加者の全員の氏名を記して日仏間でその発表内容を交換することにした（分析結果の数字化された総数は2,600×320＝832,000になった）。

分析項目は以下のとおりである。

001　男性

002　女性

003　右利き

004　左利き

005　両手利き

006　６才

007　７才

008　８才

009　９才

010　10才

011　11才

012　12才

013　13才

014　14才

015　15才

016　16才

017　17才

018　18才

019　成人

020　フランス側

021　日本側

学年

022　幼稚園，保育園

023　小学校　1年生

024　〃　2〃

025　〃　3〃

026　〃　4〃

027　〃　5〃

028　〃　6〃

029　中学校　1〃

030　〃　2〃

031　〃　3〃

032　高等学校 1〃

033　〃　2〃

034　〃　3〃

035　成人（一般的には，19才以上の美術専門以外の人）

036　部屋の中から指示内容の図を描いたもの

家の表現タイプ

壁について

037　家の壁が一面のみ描かれている

038　〃　二面描かれている

039　〃　三面，又はそれ以上描かれている

家の入口については

・一壁面に描かれている場合と

・多くの壁面がある場合は正面の面に描かれていること

040　家の下部の線が地平線（子ども自身が引いた線）と同一である

041　〃　紙の下の部分と同一（描かれていない）

042　〃　紙の下の部分と平行である

043　家の両面の縦の線が平行である

044　〃　用紙の下部の線に垂直である

045　家の下部と軒の線が平行である

046　〃　後ろに広がっている（前縮法表現）

047　〃　後ろに縮まっていく（1点透視）

窓の表現について

048　壁は透けている，窓はない

049　窓は一ヶ所あり

050　窓は二ヶ所あり

051　窓は三ヶ所以上あり

052　窓の縦の線が平行である

053　窓の縦の線が壁についている

054　窓の上下の線は透視法で描かれている

055　〃　壁の線と関係なくいい加減に描かれている

056　窓にさんが描かれている

057　窓にカーテンが描かれている

058　窓にその他のもの（花とか，手摺など）が描かれている

059　窓とその外側の扉（よろい戸）が描かれている

060　外側の扉が窓の大きさに対して大きすぎる

家の入口の表現について

061　入口の縦の両側の線が平行である

062　入口の一部（縦の線）が壁の縦の線と一緒である

063　入口の上下の線が透視法で描かれている

064　入口の上下の線が壁の消失点と合っていない

065　入口の位置が正面の壁の中心に描かれている

066　入口と窓の位置がシンメトリーで，人の顔の目と口のように見える

067　正面の壁をとうして，家の内部の色々なものが描かれている（人とか電灯，家具など）

物の大きさの比率について，窓と入口，／家の大きさが常識的に考えられる建築の外観で，どのようになっているかを見る。

068　バランスが取れている

069　窓や入口の大きさが小さすぎて全体と調和していない

070　〃　大きすぎて　〃

071　立派な建築物風に描かれている（大人が良く描く大きな建築物風に）

家が1面のみで描かれている場合には，95番目のパラメーターに進む.

家が2面で描かれている場合.（正面形でない場合）

072　二つの面の下部の線が同一である

073　建物の下部が自分で適当に描いた線の上である

074　〃　用紙の下の部分である

075　〃　用紙の下の部分と平行である

076　壁を示す縦の線が平行である

077　〃　用紙の下部と直角をなしている

078　家の下の線と軒の線（水平部分）が平行である

079　〃　〃　奥に行くに従って広がっている（前縮法）

080　〃　〃　奥に行くに従って縮まっている（透視法）

窓について

081　窓はなく壁をとうして中の人物などが見える（レントゲン描法）

082　窓は一ヶ所あり

083　窓は二ヶ所あり

084　窓は三ヶ所以上あり

085　窓の縦の線が平行である

086　窓の縦の線が壁についている

087　窓の上下の線は透視法で描かれている

088　〃　壁の線と関係なくいい加減に描かれている

089　窓にさんが描かれている

090　窓にカーテンが描かれている

091　窓とその外側の扉（よろい戸）が描かれている

092　外側の扉が窓の大きさに対して大きすぎる

093　窓のその他のもの（花とか，手摺など）が描かれている

094　レントゲン描法で中のものが見えるように描かれている

屋根について

095　屋根の斜面が一つ見える

096　〃　二面見える

097　〃　三面以上見える

家の正面と屋根の斜面との関係について

098　屋根が三角形である

099　〃　台形である

100　〃　歪んだ台形である

101　屋根の線の一部（縦の線）が壁の線の延長上にある

102　屋根の下の線が壁の上部の線となっている

103　屋根の軒先が壁より外へ出ている

屋根の斜面が二面見えるものについて

104　屋根が三角形である

105　〃　台形である

106　〃　歪んだ台形である

107　屋根の線の一部（縦の線）が壁の線の延長上にある

108　屋根の下の線が壁の上部の線となっている

109　屋根の軒先が壁より外へ出ている

煙突の形について

110　煙突あり

111　屋根の水平部分の上に描かれている

112　〃　傾斜面に上に描かれている

113　その他の描き形（常識では考えられない形式のもの）

114　煙突が斜めの形に描かれている

115　〃　３本の線で描かれている

116　家の下の線に垂直に描かれている

117　屋根の斜面に　　〃

118　家の縦の線（壁）と平行である

119　どのような形であれ二組の平行線で描かれている

120　煙突の描き方に厚みが示されている（立体表現）

121　〃　側面に遠近表現が見られる

122　〃　内部が描かれている

123　〃　上部（煙の出口）が，その側面の形の上に上から見たように描かれている

124　煙突がきちんとした遠近法で描かれている

125　煙が描かれている

126　煙の形に紙の縁の線などの影響が見られる

127　煙が画面の外へ広がるように描かれている

寝室又は部屋の中の子ども達の表現について

128　子供は描かれていない

129　〃　一人描かれている

130　〃　二人描かれている

131　〃　三人以上描かれている

132　〃　全身で描かれている

133　レントゲン描法で描かれている

家，窓，子ども達との関係のプロポーションについて

134　プロポーションが出たら目である（例，人が家に比べて大きすぎる，小さすぎる）

135　寝室が一部屋あるように描かれている（ベッドのある部屋）

136　〃　二部屋以上あるように描かれている

家のイコノタイプについて

137　家の一部が画面から外に出ている

138　家はそれ以外の事物と重なっていない

139　家は他の事物と隣接している

140　上記以外の特別な表現

道のイコノタイプについて

141　道又は道らしきものがない

142　用紙下部と平行に描かれている

143　〃　垂直に描かれている

144　〃　斜めに（どちらの方向にも可）描かれている

145　〃　右上に向かって描かれている

146　〃　左上に向かって描かれている

147　道は直線で描かれている

148　〃　うねった線で描かれている

149　〃　多くの曲線（蛇行形）で描かれている

150　〃　どのような形でもよいが平行線で描かれている

151　〃　前縮法で描かれている

152　〃　遠近法で描かれている（後ろに消失点がある）

153　道の消失点は画面のどちらかの側面にある

154　道の中心に点線が描かれている

155　道は画面からはみ出ている

木のイコノタイプ

156　木又はそれらしきものが描かれていない

157　木は一本しか描かれていない

158　同一パターンの木の形が繰り返されている

159　二種類の木のタイプで描かれている

160　三種類またはそれ以上の木のタイプで描かれている

161　木は一本の線上に並列している（方向性関係なし）

162　161以外の形式で適当に描かれている

163　木々は時折，重なるように（10%以下）描かれている

164　木々の重なりによって後ろの部分は前の木に隠れてみえない

165　木々の重なりはレントゲン描法によって描かれている

木の幹の表現について

166　木の幹は平行線で描かれている

167　幹の下部は広がっている（太くなっている）

168　　〃　　に根が見える

169　円錐形に近い形で上が狭くなっている

170　169の逆の形で描かれている

171　風変わりなかきかたで示されている

172　複雑な幹の形で描かれている

173　以上の形式以外の形で描かれている

174　幹の上部が開いたままで描かれている

175　〃　下部　　〃

176　〃　外に木の枝が描かれている

177　枝や葉がレントゲン描法で描かれている

葉の表現について

178　枯れ木のようで葉が描かれていない

179　葉が一枚一枚描かれている

180　木の葉の部分が外形のみのスペードのような形

181　　〃　　円形

182　　〃　　曲線の多い形

183　木の葉の部分が外形のみの縦の木の形

184　その他の形で描かれている

木と道と葉の関係について

185　木の幹が用紙の下の線と垂直である

186　　〃　　傾斜している

187　道の線に対して直角の形をとっている

188　道の形と平行な形である

189　〃　に対して傾斜した様子の幹である

190　幹の下部が道路の線で切れている（根元まで描かれていない）

191　〃　　用紙の下で切れている

192　並木は道の片側のみに描かれている

193　　〃　　両側に描かれている

194　並木に重なりの表現がない

195　道が並木によって隠れてみえる

196　道と並木が重なっていて，レントゲン描法で描かれている

197　並木は道を中心に左右対称に描かれている

198　　〃　　上下に描かれている（上下対象）

199　並木は消失点があるように描かれている（遠近法）

200　木と家が重なって描かれている

201　木とピンポン台が重なって描かれている

202　並木道は画面から用紙の外にはみ出している

203　木の形が別の事物表現や，用紙の縁の影響でその部分が小さく描かれている

テーブルのイコノタイプ

204　ピンポン台は描かれていない

205　台の平面が何等かの形で描かれている·

206　台の平面は矩形又は正方形である

207　　〃　　菱形で描かれている

208　　〃　　台形で描かれている

209　　〃　　変則な四角形で描かれている

210　前縮法の台形で描かれている

211　後縮法の台形で描かれている

212　前縮の四角形（台形でない形）で描かれている

213　後縮の四角形　　〃

214　台を切った形（側面図，立方体でない）で描かれている

215　台の形あるいは214の形は用紙の下の線と平行である

216　台面の下の線のみが用紙の下の線と平行である

217　台面の形の取り方が用紙の線と平行でない（傾斜している）

218　台に脚部がない

219　T字のように脚が一本しか描かれていない

220　脚が二本描かれている

221　〃　三　　〃

222　〃　四　　〃

223　〃　五本又はそれ以上描かれている

224　脚の下部の位置が水平に一致している（同一水平の位置）

225　脚は多方向に向かって描かれている

226　脚は一方向にのみ描かれている

227　脚は一般的な形式で描かれている

228　脚の表現にレントゲン描法が用いられている

用紙の下部に対する脚の方向について

229　全くばらばら勝手に描かれている（四方に放射している線）

230　脚のかきかたの一部に統一がある

231　脚は皆下に向かって描かれている

ピンポン台上のネットについて

232　ネットは描かれていない

233　テーブルに対して垂直である

234　テーブルに横たわるように描かれている，半分ほど横になっている

235　ペタンとテーブルに置かれている様子である

236　きちんと遠近法で描かれている

237　これ迄とは違った様式で描かれている

庭について

238　庭が描かれていない

239　庭が花とか道なども含めて描いてある

ピンポンをして遊んでいる人について

240　一人も描かれていない

241　一人しか描かれていない

242　二人又はそれ以上描かれている

人の体の形について

243　女性を感じる形がある

244　男性とわかる表現がある

245　男性，女性の区別がない表現

遊んでいる子どもについてその表現

246　横顔である

247　顔は前を向いている

248　顔は七三の描き方である

249　顔は後ろ向きである

250　胴体が横向きに描かれている

251　胴体が前向きに描かれている

252　胴体が七三に描かれている

253　胴体が後ろ向きで描かれている

254　手が一本しか描かれていない

255　手が二本描かれている

256　手は一方向のみである

257　手は胴から出ているように描かれている

258　足が描かれていない

259　足の方向が同じ方向に描かれている

260　足の方向が逆に描かれている

261　足の上下の位置が違っている

262　脚部に動きが出ている

263　その人はスティックマン表現である

264　人を線でなく面で描かれている

265　人を輪郭で描かれている

266　日本流のマンガチックに描いている

ピンポンをしていない人の表現について

267　横顔である

268　顔は正面向きである

269　顔は七三で描いてあいる

270　顔は後ろ向きである

271　胴体は横向きである

272　胴体は正面向きである

273　胴体は七三の向きである

274　胴体は後ろ向きである

275　手が一本しか描かれていない

276　手が二本描かれている

277　二本の手が胴から同じ方向に描かれている

278　胴から一本の手しか出ていないように描かれている

279　足は描かれていない

280　足は同じ方向である

281　足は逆の方向を向いている

282　足は上のような方向ではない

283　走っているような足の形

284　スティックマン表現の脚表現である

285　量感をもって脚表現がなされている

286　輪郭のみの表現で描かれている

287　マンガチックに描かれている

ピンポンをしている人とピンポン台などとの関係

288　紙の下の線と子どもが垂直である

289　紙の上下に展開図式に人が描かれている

290　そのほかの描き方をしている

291　ピンポンをしている人が台の向こう側にいて，レントゲンでなく描かれている

292　人と台がレントゲン描法で描かれている

293　ピンポンをしている人が並列の形で描かれている

294　〃　一部用紙の外である

295　〃　一部他の事物に隠れている

296　ピンポンをしている場面にピンポンボールが描かれている

297　上記の玉が動いているように見える

298　ピンポンのラケットが正面向きである

299　ラケットとそれをもつ手が並置の形で描かれている

事物の表現全体について

300　特殊な形式で指示を表したもの（たとえば用紙の裏に文字等書いたもの）

301　用紙の裏に何かかかれたものとの照合がなければならないもの（この例はほとんどない）

302　全体に遠近表現があるもの

303　表現に際して定規を使ったもの

304　表現に際して消しゴムを使ったもの

305　描いた場面に太陽が描かれていないもの

306　用紙の左部分に太陽が描かれている

307　用紙の中心部に太陽が描かれている

308　用紙の右部分に太陽が描かれている

309　描いた事物に陰影がある表現をしている

310　一つ一つの事物にのみ陰が描かれている

311　こちらで指示したもののほかに言葉を使って表現しているものがある

312　自由に描いたもの（指示の方式に従わずに全く自由な画面構成をしている）

313　用紙を縦に使っているもの

314　用紙を横長に使っているもの

315
316　日本側はマークの必要なし

各自の表現タイプの用紙の中の配置について

317　左側に並木道があり，用紙中央に家，その右側にピンポン台がある

318　用紙左にピンポン台，用紙中央に家，その右側に並木道がある

319　用紙上部に並木道，用紙中央に家，用紙の下にピンポン台

320　用紙上部にピンポン台，用紙中央に家，下側に並木道がある

3. 研究報告について

研究報告書作成に当たっての課題による描画資料と分析結果の資料は1990年までは完全なものではなかった。今回の報告は1992年に作成されたもので，内容の一部に原発表に若干の訂正部分がある。なお発表内容は発表者自身のものではあるが，研究者間の研究総意を代表するものである。